

ご挨拶

■ 徳島大学薬学部の研究教育に思うこと



分子情報薬理学分野 教授

福井 裕行

Hiroyuki Fukui

今から10年以上前、名の知れた製薬企業が学生達の主な就職先でした。テレビのコマーシャルで聞かれないような企業には、学生達は見向きもしませんでした。明治時代の「富国強兵」政策の下につくられた国立大学の在り方としては、それで自然であったと思われます。しかし、時代は変わりました。製薬会社の数は合併により半減しました。それ以上に、企業は生き残りをかけて、学部を超えて優秀な人材を採用しようとするようになりました。有名企業への就職は至難です。

一方で、医薬分業による保険調剤薬局の数が非常に勢いで増加し、医療薬学の必要性が増しています。医薬分業を定着させるための保険調剤薬局に対する国の保護政策もあって、給料も悪くないことから、多くの学生達が薬剤

師を志向するようになりました。徳島大学薬学部では、ペーパーテスト上位の学生が薬剤師を志向しているのが現実です。ところが、薬剤師養成を目的とする薬学科学学生が卒業後どのような進路に向かって行くのかについて、明確なメッセージが送られていないように思われます。先日、某先端医療病院の薬剤部長さんと面談する機会を得ました。徳島大学からこのような病院に就職する学生数は非常に少ないです。薬剤部長さんのお話では、採用されるための情報が不足しているのではないかとのことでした。私は、先端医療病院が多く学生の就職先になって欲しいと考えています。

先端医療病院においては、治験薬を含め先端的治療薬が高頻度で使用されています。このような病院で勤務する薬剤師には、学生の期間に高度の研究教育を経験することが必須です。しかし、薬学科では、薬剤師養成に必須

の時間、即ち、薬局・病院実務実習、OSCE、CBT 及び国家試験の準備のために時間が費やされます。そのために、研究教育の時間を削減せざるを得ませんが、逆に、限られた時間を有効に使う研究を行う能力を磨くチャンスではあります。

薬学部6年制教育が始まって、病理機構についての教育の重要性はたいへん増加しています。そもそも薬のターゲットは病気であるから、病理機構を理解しない薬学はあり得ません。薬局・病院実務実習において、病を持つ患者とのコミュニケーションが、病理機構を理解しようと思うきっかけになってくれればよいと思います。病理機構の理解は、6年制のみならず、4年制学生にも必要なことです。私の思うことが理解されて、薬学の進展に貢献できればこの上なく幸甚です。



長井長義博士 胸像



模擬薬局での調剤実習にて

HSP80事業関連

HSP80 Tokushima プロジェクト報告



生物有機化学分野 教授

南川 典昭

Noriaki Minakawa

徳島大学薬学部では、平成23年度の学部重点化事業として「薬学部宣伝隊の結成ならびに情報発信事業」と「トクシマ・ファルマ・トライアングル (TPT) 構築事業」を実施し、薬学部の入口・出口の拡張と本学部学生・大学院生の教育強化を推進しました。それらの内容については、薬学部だより No. 9 にて報告いたしました。こういった事業は、一度限りでは成果が現れません。今年度、この二つの事業の一本化と発展的継続を目的として、『HSP80 Tokushima プロジェクト』を企画・実施しました。このプロジェクトは、研ぎ甲斐のある有能な高校生を入学前にホップ (Hop) させ、入学した徳島大学薬学部生80名をグローバル化に順応可能な人材へとステップ (Step) させ、さらに社会へ大きくジャンプ (Jump) させたいとの想いからネーミングしました。

まずホップ企画として、「薬学部宣伝隊」を昨年同様実施しました。徳島県内の高校にとどまらず、愛媛県 (松山北高校)、香川県 (丸亀高校)、大阪

府 (関西大倉高校)、兵庫県 (夢野台高校、三原高校)、島根県 (出雲高校) の高校、計16校、400名以上の高校生を対象に徳大薬学部の宣伝と薬学研究の面白さを伝えました。またより深く薬学部を理解してもらうために、高校生の夏期休暇を利用して「創薬体験・薬剤師体験学習」を新企画として実施しました。創薬体験では、ベンズアルデヒドとアセトンのアルドール反応によって漢方薬成分、クルクミンの類縁体合成を参加者に合成してもらいました。また薬剤師体験では、模擬処方箋に基づく調剤作業 (散剤、水剤、一包化など) を行いながら、医薬品に関する基本知識の応用すなわち処方内容の確認や服薬指導に至るまで、薬剤師業務の一端を体験してもらいました。それぞれの体験学習を3回ずつ開催し、延べ77名の高校生が参加しました。アンケートでは、“創薬に興味があったので有意義な体験だった”や“調剤がとても面白かった。ただ本当に責任のある仕事だと感じ、充実した一日だった”など、オープンキャンパスでは味わえない貴重な体験をしてもらえたと感じています。

またステップ企画として、「最先端研究講演会」を実施しました。大学、研究所、病院ならびに製薬企業より、計17名の講師の先生を招き講演をしていただきました。大学院生を対象とした最先端研究の講演はもちろん、本学部を卒業された小暮健太郎先生 (京都薬科大学教授) には、後輩たちに熱いメッセージを送って頂きました。昨年同様、「創薬現場体験」も実施しました。今回は、3年生、4年生、そ

して就職活動本格化直前の修士1年生を中心に、大日本住友製薬株式会社と日本新薬株式会社を訪問しました。特に、創薬研究者をめざす創薬科学の学生にとっては非常に有意義な経験になったものと確信しています。さらに新たな企画として、グローバル化に対応可能な人材育成を目的として「TOEIC 対策集中研修」を開催しました。今回は初回ということもあり [TOEIC 470点突破クラス] と [TOEIC 650点突破クラス] の二講座でしたが、徐々にレベルアップしていきたいと考えています。

最後に、薬学部生を社会に向けて大きくジャンプさせる企画として、「薬学部就職支援講演会～先輩からのメッセージ～」を実施しました。本学部卒業の先輩からの話が聞けるということで大変好評の企画で、本年度は板倉朋宏氏 (大日本住友製薬株式会社)、田中直伸先生 (北海道大学大学院薬学研究科)、糠谷美佳氏 (参天製薬株式会社) の3名を講師としてお招きし、在学生に対して心からのエールを送っていただきました。本年度は例年にも増して多くの質問があり、活発な意見交換がなされました。就職支援講演会は、在学生が徳島大学薬学部をより深く知るとい意味からも重要な企画であり、さらに充実を図りたいと思います。

大学の使命は、学生を教育し、そして優秀な人材として社会に輩出することです。このHSP80 Tokushima プロジェクトを継続、そして発展させ、その使命を全うしていきたいと考えています。



三原高等学校にて徳島大学薬学部を紹介



創薬体験で行った化学実験



就職支援講演会にて

大学間連携共同教育推進事業採択について



医薬品機能生化学分野 教授

土屋浩一郎

Koichirou Tsuchiya

のたび、徳島大学、徳島文理大学、松山大学が共同で、近未来の医療に対応できる能力を備えた薬剤師・薬学研究者の養成を目的とし、文部科学省平成24年度大学間連携共同教育推進事業に「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」で応募し採択されましたので、その概要を紹介いたします。

本事業は国公私立の形態を超えて大学間が相互に連携し、学生を送り出す地域や分野に関わるステークホルダーと課題を共有・協働し、急激に変化する社会において主体的に考える力を持ち社会の様々な課題を解決に導く多様な人材を養成することを目的として公募が行われました。

そこで徳島大学薬学部、徳島文理大学薬学部、徳島文理大学香川薬学部、松山大学薬学部の4薬学部が共同で、各校の強み（大学病院と高い研究実績を有する徳島大学薬学部、充実した文系学部の協力の得られる松山大学薬学部、医療のIT化に取り組んでいる徳島文理大学）を生かし、各県のステークホルダー（薬剤師会、薬局、病院、企業、高校、行政）と協定を締結するとともにそれら団体からの要望を合わせ、連携して充実した薬学教育の展開を図ることといたしました。具体的に

本取組では①学士課程教育における連携、②大学院教育における連携と共同研究の推進、③専門分野別の教員FD開催、④連携附属薬局の開設、⑤災害支援薬剤師養成、⑥治験・臨床開発従事者の養成、⑦高大連携事業を進めていきます。

本取組は平成24年度から平成28年度までの5年間の事業で、現時点でのスケジュールでは、平成24・25年度は遠隔講義システムの導入をはじめ、共同教育に向けた体制を整備します。また、欧米諸国の薬学系大学院教育の実情を視察し、新しい大学院教育のナショナルスタンダードの確立を進めます。専門分野別のFD活動による教育力の向上を図ります。平成26年度からは、各大学が設置予定の附属薬局を共同活用して、へき地医療、在宅医療や医療情報の電子化を含むモデル薬局活動を展開します。また、予想されている南海地震に対応できる災害対応薬剤師、治験コーディネーターや専門薬剤師の養成に取り組めます。

特に、この事業ではリアルタイムまたはオンデマンドで4薬学部に配信する遠隔授業システムを各薬学部に新たに導入します。これは各薬学部に既に蓄積しているeラー

ニング資産、各薬学部の特色のある授業など、教育資源を共有することで所属する学生及び院生が広い分野から学ぶ機会を提供することが可能になります。また地域の既卒薬剤師向けの生涯教育へも展開する方向で検討を進めています。

このように、本取組は国立・私立の垣根を越えて、四国という地方を指向した教育・研究・社会貢献を進めるプロジェクトであり、本学部の特色である“創薬を目指した特色ある教育・研究”を生かし、地域の企業、病院、薬局のフロントラインで活躍できる薬剤師・薬学研究者の育成に結びつけていきたいと考えています。

皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

文部科学省「平成24年度大学間連携共同教育推進事業」選定取組
四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革

この取り組みは、
四国の1国立・2私立大学の4薬学部が協力的連携体制を持ち、薬剤師養成教育・大学院教育と研究を共同して推進し、臨床薬学分野の研究（pharmacist-scientist）や高度な専門知識を有する臨床薬剤師、災害支援薬剤師の養成を目指します。
さらには地域のステークホルダーと密接に情報交換を行い、自院特有の課題に対応できる地域薬剤師の養成に協働して取り組みます。

徳島文理大学香川薬学部
徳島大学薬学部
松山大学薬学部
徳島文理大学薬学部

トップページ ニュース&トピックス ご挨拶 趣旨と目的

今後の予定

- 2013年1月26日 第126回日本薬学会中国四国支部会「四国における薬学教育改革とテーマ（原厚の提議）」
- 2013年1月28日～1月17日 光臨訪問（フィンランド・デンマーク）の薬剤師教育の視察
- 2013年1月28日～1月17日 光臨の薬学教育の視察

ニュース&トピックス

徳島大学薬学部	徳島文理大学香川薬学部	松山大学薬学部	徳島文理大学薬学部
<p>2012/12/25 FD委員会【薬理分野】を開催しました。</p> <p>平成24年12月26日（水）にFD委員会【薬理分野】をサンポート高松にて開催しました。</p> <p>詳しくみる</p>	<p>2012/12/25 FD委員会【病態・薬物治療分野】を開催しました。</p> <p>平成24年12月26日（水）にFD委員会【病態・薬物治療分野】をサンポート高松にて開催しました。</p> <p>詳しくみる</p>	<p>2012/12/25 FD委員会【物理・化学・生物分野】を開催しました。</p> <p>平成24年12月26日（水）にFD委員会【物理・化学・生物分野】をサンポート高松にて開催しました。</p> <p>詳しくみる</p>	<p>2012/12/21 FD委員会【業務分野】を開催しました。</p> <p>平成24年12月21日（金）にFD委員会【業務分野】をサンポート高松にて開催しました。</p> <p>詳しくみる</p>
<p>2012/12/20 FD委員会【法規・制度・倫理分野】を開催しました。</p> <p>平成24年12月20日（木）にFD委員会【法規・制度・倫理分野】をサンポート高松にて開催しました。</p> <p>詳しくみる</p>	<p>2012/12/18 FD委員会【薬劑分野】を開催しました。</p> <p>平成24年12月18日（火）にFD委員会【薬劑分野】を徳島大学薬学部にて開催しました。</p> <p>詳しくみる</p>		

HP (<http://www.bunri-u.ac.jp/shikoku-yaku/>) を是非ご覧ください。

研究紹介

■ 越境大気汚染の監視塔 ～富士山頂の大気をはかる～



薬品分析学分野 准教授

竹内 政樹

Masaki Takeuchi

昨今、1970年代に猛威をふるっていた光化学スモッグの発令回数が、北九州や日本海沿岸地域を中心に再び増加しており、この要因として、経済発展の著しい東アジア地域からの越境大気汚染が指摘されています。日本国内に輸送された二酸化硫黄 (SO_2) や窒素酸化物 (NO_x) 等の酸性ガスは、酸性沈着物として地表面に降下し、自然環境を破壊するだけでなく、私たちの健康にも悪影響を及ぼします。最近の疫学研究において、酸性ガスの1つである亜硝酸ガスは、呼吸器疾患と深い関連があることが示されました。従って、日本国内に流入する酸性物質を継続的にモニタリングして越境大気汚染の実態を解明することは、私たちが健康に生活していく上で極めて重要です。

なぜ、富士山頂？

全国各地で行われている地表面での大気観測結果は、越境汚染物質と国内から放出された汚染物質の両者の影響が反映されるため、地表面の観測では、前者の挙動を正確に把握することができません。そこで、私たちは日本最高峰の富士山頂を利用して、越境汚染物質の観測を試みています(図1)。富士山は孤立峰であり、その頂(標高3776m)は自由対流圏高度に位置するため、日本上空の大気汚染物質の観測には理想的な場所です。自由対流圏とは、私たちが生活している

空気層(大気境界層)の上にある空気層で、高度はおおよそ2kmから10kmの範囲を指します。自由対流圏では偏西風が強く吹いているため、東アジア地域から放出された大気汚染物質がいったん自由対流圏まで上昇すると、偏西風によって地上

よりも速く日本に輸送されます。従って、富士山頂で大気観測を行うことにより、越境大気汚染物質の挙動をいち早く、かつ正確に知ることができます。また、自由対流圏高度の汚染物質観測法として、航空機観測やゴム気球観測があります。これらの手法は三次元的な観測が可能ですが、費用が高額なためデータが間欠的になります。一方、富士山頂を利用する場合は、定点観測になりますが、費用が比較的low額なため連続的なデータが収集可能となり、越境汚染物質を時系列的に把握することができます。

富士山頂の大気をはかる

一般的に、大気中酸性ガスのサンプリングには、フィルターパック法と呼ばれる捕集法が用いられています。この手法は、簡易的ですが、サンプリング中のアーティファクト(二次的に生成または消失する測定対象成分)による測定誤差が問題となります。また、サンプリング毎に捕集フィルターを手動で交換する必要があり、1回のサンプリングに6時間から12時間程度を要するため、時々刻々と変化する酸性ガスを追跡することはできません。そこで、私たちの研究室では、酸性ガスの挙動に関する物理的な解析をもとに、ガス捕集器(図2 ウエットデニューダ)を独自に設計・製作し、酸性ガス濃度を自動測定できるシステムを構築しました。この分析システム

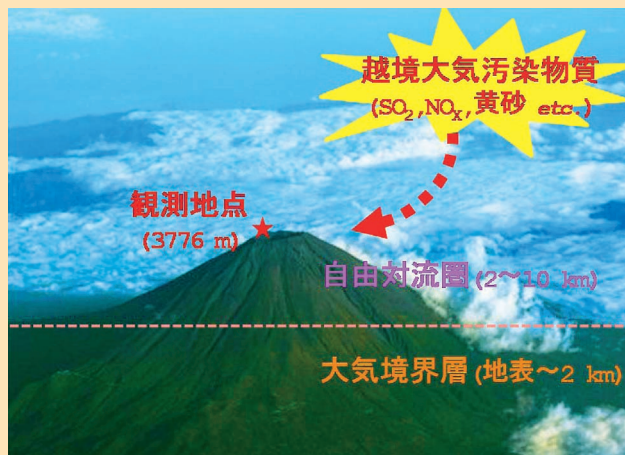


図1 富士山頂における越境汚染物質の観測

は、酸性ガス濃度を15分という高時間分解能で追跡でき、アーティファクトの影響が小さいため、信頼性の高いデータを得ることができます。また、測定期間中にメンテナンスを行うことなく稼働できるため、オペレーターは分析システムを稼働させてしまえば、測定場所を離れることができます。

この夏に、先の酸性ガス自動モニタを富士山頂(富士山測候所)に設置し、4種の代表的な酸性ガス(HCl、HONO、 SO_2 、 HNO_3)濃度を追跡しました。現在、得られたデータを解析しているところですが、自由対流圏で酸性ガスを1ヶ月以上にわたって自動連続観測した例は、世界的にも例がなく、今後、新たな発見が期待されます。

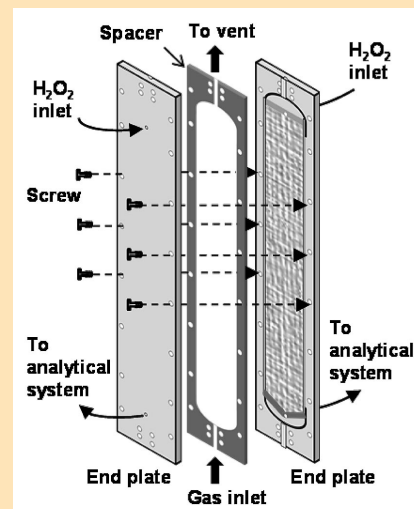


図2 独自に設計・製作したガス捕集器(ウエットデニューダ)

イベント

第35回徳島大学薬学部卒業教育公開講座の開催



薬物動態制御学分野 教授

際田 弘志 Hiroshi Kiwada

薬物動態制御学分野 准教授

石田 竜弘 Tatsuhiro Ishida

平成24年12月1日(土)に「病院・薬局・大学の連携と交流を目指して」をメインテーマに、また「薬剤師業務における諸問題解決のためにも考える」をサブテーマに第35回徳島大学薬学部卒業教育公開講座を長井記念ホールにて開催いたしました。

平成23年より中学校「保健分野」で、平成25年度より高等学校「保健」

で「医薬品」に関する教育が開始され、学校教育でも医薬品の適正使用に関する知識の普及や啓発が行われていることから、中安紀美子先生(徳島文理大学保健福祉学部(非常勤講師)・元徳島大学総合科学部教授)をお迎えして「学校での医薬品に関する教育と薬剤師への期待」というタイトルでお話をいただきました。先生には養護教諭としてのお立場から教育現場(保健室)における医薬品の指導についてお話をいただきましたが、必ずしも医薬品に精通しているわけではない養護教諭の方々の苦悩と地域の薬剤師・学校薬剤師への期待の大きさをお知らせいただいたような気がいたしました。また、医薬品の適正使用を実現するためには低学年からの教育が重要であるのは確かだが、実際には医薬品の使用や疾病への対処に関して意識が低い保護者に対する授業時の情報伝達が極めて重要である、というお話は、薬剤師の役割の大きさを改めて認識するよい機会となりました。

また、その後会場をスタジオプラザ



講演をされる中本元徳島大学教授

に移し、ポスターセッションを行いました。セッションでは一般から9つの発表があり、座長の徳村教授を中心に活発な議論が行われ、よい情報交換の場となりました。また、同時に薬学科5年生による薬局・病院実務実習の成果に関わる発表も行わせていただき、6年制における実務実習について関心とご理解をいただく良い場となったものと思っております。参加いただいた皆様から学生にフィードバックをいただくケースもあり、学生達にとっても有意義な機会となったようです。

次回、第36回徳島大学薬学部卒業教育公開講座は平成25年初夏の予定です。卒業生の皆様におかれましては、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

薬物乱用防止啓発活動に参加して



薬学部1年

梶 矢 真 由

Mayu Kajiya

11月3日に行われた大学祭で薬物乱用防止のための啓発活動をしました。徳島大学は今回が初めての参加だったのですが、徳島県の薬務課の方や一般の薬物乱用防止指導員の方と一緒に呼びかけをしました。一般の方の理解度を調査するとともに正

しい知識を持ってもらうことが今回の目的でした。そこで、薬学部棟にブースを設けてのパネル展示、DVD上映、外を歩く人に対して薬物に関する〇×クイズを実施しました。

活動の前は、いきなり声を掛けてもあまり協力してもらえないのではないかと心配していました。しかし、年配の方がこちらから声をかけずとも質問に来られたり、学生がクイズの後にこれはどうなのかと尋ねてくれたりして、とても良い雰囲気での活動ができたように思います。多くの方がいい意味で薬物に関心を持っていることができました。反対に、薬物乱用が、世代を問わず関心を集める社会問題になってしまっているということも実感させられました。

この活動で改めてパンフレットを読み返したことで、自分の中でも整理がつき薬物に対する理解が深まったよう

薬物乱用防止啓発活動



薬物に関するクイズを実施

に思います。普段とは逆の「教える」立場に立ったことや、指導員として活動される社会人の方と接することで、薬学部の学生として正しい知識をもっと身につけなくてはならないという自覚も生まれました。また、普段あまり関わることはない年代の方と一緒に活動したり、活動を通じて地域の方と接したりできたことは、地域交流という面でもとても良い経験になったと感じています。この活動を今回だけに終わらず、2回目3回目と続けていきたいらと思います。

学生の活躍



薬学部薬学科6年

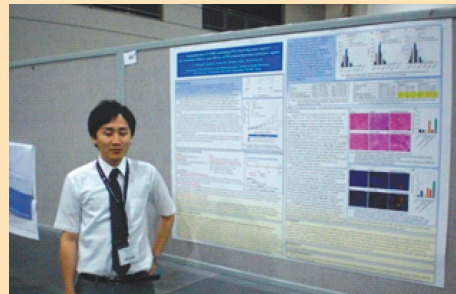
中村 浩之

Hiroyuki Nakamura

国際学会 CRS 2012 Annual Meeting に参加して

2012年7月15日から18日にカナダのケベック・シティにおいて開催された「Controlled Release Society 2012」に参加しました。本学会は主に DDS を専門分野とする国際学会であり、アカデミアの先生だけではなく、民間の研究者の方も多く参加しており、まさに DDS 分野の最先端の研究の発表が行われる場であるという印象を受けました。そのため、著名な先生方も参加されており、非常に緊張しました。さらに、初めての国際学会への参加でしたので、研究発表及び質疑応答の準備など渡航前から初めて尽くして、緊張の連続でした。そんな中でも、外国人研究者の方々が真摯に話を聞いて下さり、科学によ

て通じ合える喜びを感じました。また、発表や討論、Education セミナーを聞かせていただくことができ、とても良い刺激を受けた4日間でした。



大学院薬科学教育部創薬科学専攻
博士後期課程3年

佐々木 久子

Hisako Sasaki

国際学会『ICNPR 2012』に参加して…

2012年7月28日から8月1日に米国ニューヨークで開催された International Congress on Natural Products Research 2012 という学会に参加させて頂きました。同時期に、英国ロンドンでは、スポーツの世界の大会であるオリンピックも開催されておりました。本学会は、“天然物のオリンピック”といわれる程の大きな学会で、66カ国から多数の研究者が参加していました。本学会では、天然物の単離・構造決定や活性、天然物の合成、医薬品化学、構造決定に貢献する新しい技術に関する研究が、発表されていました。構造決定の新たな技術に関する講演は、大変勉強になりました。技術や研究は、着実に前進しており、これらの多くの知見が、未来を創造していくのだと感じました。

ポスター発表の時間では、多くの海外の研究者に、彼らの研究に対して、積極的に質問したり、討論しました。そして、最後には、研究での悩みや問題点なども話し合いました。

また、本学会は、Opening Reception, New York Botanical Garden での Event, Closing Banquet などの参加者同士の交流の場も設けられており、他国や自国の研究者と知り合うことができました。



大学院薬科学教育部創薬科学専攻
博士後期課程1年

大楠 剛司

Takeshi Ohgusu

Flow Analysis XII に参加して

2012年9月23日から28日まで、ギリシャのテッサロニキで開催された12th International Conference on Flow Analysis (Flow Analysis XII) に参加してまいりました。本国際会議には、フローインジェクション分析法の創始者である Ruzicka 教授や Hansen 教授をはじめ、流れ分析を専門とする研究者が世界中から参加されていました。洋書や学術論文で見覚えのある著名な先生の講演を聴き、さらに各国の若手研究者と交流することで多くの刺激を受けました。英語力や積極性など自分に足りないものも認識することができ、有意義で充実した6日間でした。さらに、現地の郷

土料理を味わったり、文化や歴史を学んだり、海外の雰囲気を感じることができ、とても感動しました。今回の経験を今後の研究生生活の励みにしたいと思います。



【海外旅費支援制度】

徳島大学薬学部では、若手研究者の活性化及び大学院学生等の修学・研究意欲の向上を図り、国際的な視野を広げることを目的として、学部長裁量経費により海外旅費支援制度を実施しています。平成24年度は7名の学生が支援を受けています。

新任教員紹介



製剤設計薬学分野 助教

長尾 耕治郎

Kohjiro Nagao

平成24年7月1日付けで、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部製剤設計薬学分野の助教に着任致しました。私は島根大学生物資源科学部を卒業後、京都大学大学院農学研究科修士・博士課程を修了し、平成22年3月に博士（農学）の学位を取得しました。その後、京都大学物質-細胞統合システム拠点（iCeMS）において研究員を約2年間務めてまいりました。この間、抹消組織に過剰蓄積したコレステロールを除去することで動脈硬化症の発症予防に寄与するATP binding cassette（ABC）トランスポーターの機能解析を細胞生物学並びに生化学的な手法により行っ

てきました。今後は、所属研究室が得意とする物理化学的手法との融合をはかることで、新たな研究領域を開拓していきたいと考えております。さらに、医歯薬学部が同一キャンパスに存在する利点を活かし、基礎から臨床応用までを視野にいたれた研究を推進できればとも考えております。また、教育者として、研究活動等を通して科学的な思考力のある薬学研究者、薬剤師の育成へも携わることができればと存じます。まだまだ未熟ですが、精一杯頑張りますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



臨床薬学実務教育室 助教

中瀬 真理

Mari Nakase

平成24年7月1日より、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部臨床薬学実務教育室の助教に着任しました。

本学大学院薬学研究科博士前期課程医療薬学専攻を第一期生として修了し、徳島大学病院薬剤部へ就職しました。病院内外の調剤業務を始めとして、外来や入院患者様への服薬指導、また輸液調整など病院業務を経験しました。その後、米国スローンケッタリング癌研究所やフロリダスクリプス研究所などで基礎生物学の実験助手として勤務し、出産を機に退職して米国での双子育児に奮闘しました。そして、帰国し徳島で病院勤務をしておりましたが、今回ご

縁があり現職となりました。

臨床薬学実務教育室では、主に薬学科5年生の長期実務実習の薬局担当として指導に当たっております。また、4年生の事前学習の調剤実習なども担当しています。

薬学部薬学科は6年制となり、OSCE試験や長期実務実習など体制が大きく変化し戸惑うこともありましたが、徳島大学を卒業したそれぞれの学生が社会に貢献し必要とされる薬剤師として活躍できるよう、微力ながら精一杯取り組んでまいります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



生物有機化学分野 助教

古川 和寛

Kazuhiro Furukawa

平成24年10月1日付で、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生物有機化学分野の助教に着任した、古川和寛と申します。私は、早稲田大学理工学部を卒業後、早稲田大学大学院応用化学専攻に進学し、平成21年3月に博士（工学）の学位を取得致しました。大学院生時代は、合成した蛍光発生化合物をベースに、核酸の高感度検出技術の開発、および細胞内核酸のイメージング技術の開発に従事しておりました。学位取得後は、DNA触媒・リボスイッチの発見者として知られるエール大学のBreaker教授の下で、核酸の新機能の人工創生・および生体内での核酸の新機能の探索に携わって参りました。徳島大学薬

学部では、核酸の有機合成化学をご専門とする南川教授と協力させて頂き、核酸医薬の開発を何としても成し遂げたいと考えております。思えば学部生時代は、バイトとライブと彼女とのデート（現・妻です）に明け暮れていた私が、大学教員としての道を歩き出したというのは今でも不思議な感じがします。大学院生のときに出会った研究テーマや指導教官によって身も心も生まれ変わり（?）、以降は研究生活にどっぷりと漬ってしまいました。一人でも多くの学生に、同じような体験をさせてあげられるよう、全力で学生教育にも取り組みたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

薬用植物園一般開放



薬学部薬用植物園長

柏田 良樹

Yoshiki Kashiwada

恒例となっている薬学部附属薬用植物園の一般開放を、10月15日(月)～19日(金)に開催しました。毎年この薬用植物園開放期間中には県内外から1,000名近くの方が来園され、好評を得ています。薬用植物園では生薬、薬用植物の栽培や、徳島県に分布する植物を中心とした絶滅が危惧される植物の保存等にも取り組んでいます。この一般開放では、生薬や薬用植物を見ていただくだけではなく、一般の方には少し珍しい植物なども紹介しています。今年は、臭い匂いを放つ薬用植物、ショ糖の1000倍の甘さのあるアマミコウスイボク、14年

ぶりに発芽したオニバス等を紹介しました。また一般開放に合わせて、趣味で染色や織物をされている女性グループにご協力いただき、染色作品や織物作品やろうけつ染めした薬草画に、再び筆で染料を用いて描いた染色画の展示も行いました。今年の一一般開放期間中には香川学長も来園され、展示されている「染色画」をご覧になり大変気に入られたことから、作品の一部は徳島大学本部に現在展示されています。



薬学部関連ニュース

学会賞等受賞

■有機合成化学協会アステラス製薬・生命有機化学賞

受賞者所属・氏名：機能分子合成薬学分野 教授 大高 章
受賞年月日：2012年2月17日

■生有研シンポジウムベストディスカッション賞

受賞者所属・氏名：大学院薬科学教育部創薬科学専攻
栗飯原 圭佑 (M1)
受賞年月日：2012年8月27日

■次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2012優秀ポスター賞

受賞者所属・氏名：薬学部薬学科6年 渡邊 勝志
受賞年月日：2012年9月1日

■日本分析化学会第61年会若手講演ポスター賞

受賞者所属・氏名：薬学部薬学科6年 戌亥 孝次
受賞年月日：2012年9月19日

■The 6th Shanghai International Symposium on Analytical Chemistry Best Poster Award

受賞者所属・氏名：薬品分析学分野 准教授 竹内 政樹
受賞年月日：2012年10月17日

■2012 Tokushima Bioscience Retreat 若手研究者奨励賞

受賞者所属・氏名：大学院薬科学教育部創薬科学専攻
松下 剛史 (M1)
受賞年月日：2012年10月25日

■日本ペプチド学会奨励賞2012

受賞者所属・氏名：機能分子合成薬学分野 助教 重永 章
受賞年月日：2012年11月7日

■第49回ペプチド討論会若手口頭発表優秀賞

受賞者所属・氏名：大学院薬科学教育部創薬科学専攻
佐藤 浩平 (D1)
受賞年月日：2012年11月8日

■第49回ペプチド討論会ポスター賞

受賞者所属・氏名：大学院薬科学教育部創薬科学専攻
坂本 健 (M1)
受賞年月日：2012年11月8日

■日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会 フローインジェクション分析進歩賞

受賞者所属・氏名：薬品分析学分野 准教授 竹内 政樹
受賞年月日：2012年11月16日

■第50回フローインジェクション分析講演会 若手優秀ポスター賞

受賞者所属・氏名：薬学部薬学科4年 宮崎 亜珠美
受賞年月日：2012年11月16日

■第54回日本先天代謝異常学会総会若手優秀演題賞

受賞者所属・氏名：創薬生命工学分野 助教 辻 大輔
大学院薬科学教育部創薬科学専攻
北風 圭介 (M2)
受賞年月日：2012年11月16日

■有機合成化学協会中国・四国支部 支部奨励賞

受賞者所属・氏名：有機合成薬学分野 准教授 吉田 昌裕
受賞年月日：2012年11月17日

■文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 「融合マテリアル」第5回若手スクール優秀発表賞

受賞者所属・氏名：大学院薬科学教育部創薬科学専攻
栗飯原 圭佑 (M1)
受賞年月日：2012年11月27日

■2012ハロゲン利用ミニシンポジウムポスター発表賞

受賞者所属・氏名：大学院薬科学教育部創薬科学専攻
合田 峻輔 (M1)
受賞年月日：2012年11月30日

発行：徳島大学薬学部

編集：薬学部広報委員会

広報委員：大高 章、南川典昭、植野 哲
石田竜弘、吉田達貞、北池秀次

URL：http://www.tokushima-u.ac.jp/ph/

〒770-8505 徳島市庄町1丁目78-1

徳島大学医歯薬事務部薬学部事務室総務係

E-mail：isysoumu3k@tokushima-u.ac.jp

●皆様のご意見、ご要望、エッセイ、写真、絵画、漫画などご投稿を歓迎します。どしどしご応募下さいませよう御願いたします。次回の発行は、平成25年の4月を予定しております。